

日本で一番暑い9月 40度に迫る残暑に 負けず県内2駐屯地で予備自衛官招集訓練



新潟地本（本部長 1陸佐 大倉正義）は9月4日（金）から8日（火）までの間、陸上自衛隊高田駐屯地及び新発田駐屯地において、予備自衛官5日間招集訓練を支援しました。

今回の招集訓練は、高田駐屯地第2普通科連隊（連隊長 1陸佐 古賀理都靖）と新発田駐屯地第30普通科連隊（連隊長 1陸佐 堀口大助）が担任し、予備自衛官202人が参加しました。出頭予備自衛官には、2週間以内の体調を確認し、出頭受付での検温、消毒等の感染症防止対策を行いました。

訓練開始前日の9月3日（木）には、新潟県内で観測史上初めて40度を越えた地域もあり、招集訓練中も気温の高い残暑が続いたが、各予備自衛官は体調に注意し、集中して訓練に参加していました。

訓練項目は精神教育、武器訓練、警備訓練等を実施し、その中の救急法訓練では、AEDの使用方法和併せ、近年装備された止血帯付き救急包帯の使用法を訓練し、練度の維持・向上を図りました。

参加した予備自衛官は「新型コロナウイルス対策と併せ、熱中症にも留意して準備して頂き、安心して訓練できました。座学での国際情勢やサイバー防衛等の教育も、勉強になりました」と話していました。また、各駐屯地それぞれで予備自衛官永年勤続者表彰を行い、最終任期満了者7名、10年永年勤続者1名に対して、東部方面総監からの顕彰状を伝達するとともに、5年永年勤続者9名に対して、新潟地方協力本部長が顕彰し、功績を称えました。



5年永年勤続者表彰を受章した長谷川 春彦予備准陸尉は、現在新潟地本で後輩の就職援護に当たる非常勤職員であり、「定年退官から予備自衛官に採用され、5年が経ちました。一緒に訓練する予備自衛官の中には、予備自衛官補出身の隊員もおり、それぞれが自分の持てる力を活かして地域に貢献しています。これからも、体調に留意して訓練に参加していきます」と話していました。

新潟地本は、今後も県内各部隊と連携し、感染症予防対策を行って各予備自衛官の安全を図り、身上把握及び出頭確認を的確に行っていきます。